



## 子どもを伸ばす関わり～「叱る」と「怒る」～

今日は節分。大人も子どもも、心の中の鬼を追い出し、福を迎えたいところです。

さて、日々の学校生活の中で、子どもたちは成功と失敗を重ねながら成長しています。その過程で、大人の声かけは、「学びの姿勢」や「自己肯定感」に大きく影響します。本校では、2日の朝礼で、子どもを伸ばす指導の中でも特に「叱る」と「怒る」について共有しました。ご家庭でも大切にしていきたい考え方として「叱る」と「怒る」は全く違うという点をお伝えいたします。

### ■ 「叱る」とは

子どもの成長を願い、行動をよりよくするための大人の関わりです。

- \*行動のどこが問題かを具体的に伝える
- \*なぜいけないのか理由を示す
- \*次にどうすればよいかを一緒に考える
- \*人格を否定しない



目的は行動の改善で、子どもは「大切にされている」と感じながら次の一步を踏み出せます。

### ■ 「怒る」とは

大人の感情が中心となり、相手にぶつけてしまう行為です。

- \*イライラや不安が先に立つ
- \*言葉が強くなり、相手を萎縮させる
- \*行動改善につながりにくい
- \*子どもは「否定された」と感じやすい



目的が感情の発散になりがちで、恐怖や反発だけが残りやすくなります。

### ■ 子どもが伸びるのはどちらか

忙しい日には感情が先に出ることもありますが、「叱る」=子どもの未来のため、「怒る」=大人の感情のためという違いを大人自身が意識することが大切です。叱る関わりは自己調整力や学びの姿勢を育て、怒る関わりは心を閉ざしやすくします。

### ■ 学校として大切にしたいこと

本校では、節分を機会に、教師が感情的にならず、行動の背景を理解しながら改善につながる声かけを行うことを重視するよう職員一同で確認いたしました。ご家庭と学校が同じ方向を向くことで、子どもたちはより安心して成長していきます。

子どもたちは叱られた経験を通して「どうすればよかったのか」を学び、少しずつ自分で調整できるようになります。大人が“怒る”ではなく“叱る”を選ぶ積み重ねが、子どもたちの未来を力強く支えていくということを、本校保護者の皆様と共有したいと思います。 了